じょう　がく　つう　しん
城岳通信

第31号
令和２年12月11（金）
発行者：校長　宮里 寿子

校内研修・図工「対話的鑑賞法」
～前田比呂也先生（那覇市立寄宮中学校校長）を招いて～

12月7日（月）の午後3時より、校内研修を行いました。例年なら、夏休みに多くの講師をお招きして、学級経営や授業改善について研修を行ってきましたが、今年度は職員が一堂に会して研修をするのは、今回が初めてでした（エピペン研修は除く）。

講師は前田比呂也先生。2年前に参加した上山中学校の卒業式で、当時上山中の校長だった前田先生の「自分のことを好きになること」「多様性を認めること」「繋がっていることに気づくこと」の式辞を聞き感激したので、ぜひお話を聞きたく校長自ら企画した研修会でした。

研修内容は「対話的鑑賞法」。模擬授業形式で、ゴッホの「ひまわり」の絵を見て、「自分に例えると、どのひまわりが『自分』なのか、理由も考えること」等の課題が出されました。ペア・グループでのシェアリングでは、結構自分自身のことが反映されていて大盛り上がり。ですが、選んだ理由が色や構図（高さ等）、形についてだったので、自然と「絵」の構成について考える授業となり、話し合わせるペア・グループ学習での「発問」がいかに大切なのかを実感しました。また、全国児童絵画コンクールで文部科学大臣賞を受賞した絵を例にして、「作品」の評価から、子ども達がどのような思いで描いたのかを評価する、「作品からみる」評価方法も研修しました。先生方の感想は「子ども達が語りたくなる鑑賞の授業をしたい」「上手に作品を仕上げることを評価してきたが、作品に込められている子ども達の願いや思いをくみ取る大切さを学びました。」とありました。


前田比呂也先生



後半は、前田先生の実践のお話でしたが、**子ども達の多様性を認め、寄り添い、子ども達が成長していく姿を聞き、涙する職員もいました。最後に、子ども達が、『先生！』と呼び止めた言葉の後には、『ここに居てもいい？』が続いているというお話。心に留めます。**

生活科「秋を楽しもう」（１年）

8日（火）、学校近くの中央公園に出かけ、赤や黄色、茶色になった葉っぱをたくさん集めた1年生。公園までのぞきに行くと、「校長先生、見てみて～。ハート♡の形をしてるよ～」と、久しぶりの校外活動に大はしゃぎでした。9日（水）は図工で、集めた葉っぱを使って、お洋服づくり！ワークスペースでのファッションショーでは、人気の「鬼滅の刃」のポズで、かっこよく決めていた、1年生でした。(*^_^*)


素敵な衣装ができました

「レインボーフェスティバル」
～生活科（２年）１年生を招待～

10日（木）は、「レインボーフェスティバル」を頑張った2年生。自分達が考えたゲームで1年生をもてなします。例年なら、学年で行っていましたが、今回は密を避けると言うことで、学級毎に1時間の実施。1年生を楽しませようと、ゲームの賞品まで用意していた2年生。すっかり、1年生の頼れる、頼もしい先輩です。


パタパタカーコーナー